

## 地域課題解決の取組を通じた児童の 主体性・行動力・表現力の育成

井原市立真主小学校

### 1 はじめに

本校は、井原市の南部に位置し、全校児童44名（令和4年度）です。明るく素直な児童が多いのですが、友達や地域の方々に自分の思いを言葉で上手く伝えることができないのが課題でした。それを解決するため総合的な学習の時間を中心に取り組んだ概要を紹介します。

### 2 取組の概要

井原市では、令和元年度より「ふるさと井原の未来を創るひとづくり事業」を開始し、自分とふるさと井原を愛し、よりよい未来のために実行する自分と井原への確かなIdentityをもった人材に求められる資質・能力『井原“志”民力（非認知能力）』の育成に向け、学校教育においては総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメントを推進しています。

#### （1）総合的な学習の時間の内容の見直し

活動ありきだった年間計画を



地域の方にプロジェクトを提案

見直し、「ふるさと井原・県主を愛する人を育てよう」と決め、資質・能力の観点で身に付けた力を設定しました。

#### （2）「かかしプロジェクト」

本校の児童数の移り変わりをグラフに表すと、急激な右下がりとなっています。これに課題を感じた5年生は、「県主の良さを伝え、広めたい」と「願い」（本校ではキャリア教育の視点で全ての学習活動で設定）をもちました。そこで地域で活躍さ

れている様々な方を招き、地域にある「かかし」を中心にしたプロジェクトについて提案しました。しかし、計画の甘さを指摘され、質問にも答えられない。この経験がきっかけとなり、自分事として課題解決に向き合う姿へと変わりました。

「知っているようで実は知らなかった」ことに向き合い、調べ方を広げ、内容を深めていき、かかしマップを作り「ウォークラリー」を実施。かかしコンテストでは、参加者に、ティッシュユカバー（家庭科ミシン縫いを活用）を配付。

更に、児童は「おかやま学びたい賞」に参加することにより、県内の小・中学生に地域の良さを伝えたいと考えました。この時、国語科で身に付けた力が生きて働きました。

#### （3）他教科との関連

説明的文章の読み取り方は、筆者の論の進め方、文末表現、双括型・尾括型など、読者を納得させるための手法について学んでおり、発表に活用しました。このように、他教科で身に付けた力が総合的な学習の時間に活かされ、総合的な学習の時間の学びが他教科に影響を与えるなど、相乗効果の関係ができてきました。振り返りの場

面等、自分の考えを堂々と伝えられる児童が少しずつ増えてきました。

### 3 おわりに

学区の高齢化率は4割ですが、児童の取組を受け、町おこしの方々は、かかし20体の服装を全てリニューアルされました。つまり児童が地域の方を巻き込んだこととなります。これぞ『井原“志”民力』です。



かかしコンテストで景品配付

地域の方は協力してくださいます。甘い考えには容赦なく厳しいご指摘をください。今後も、この温かい地域の課題を一緒に解決していく力を児童に養いたいと考えています。

（令和4年度校長 谷 扶美恵）